

3. 親の姿を見せる

乳幼児に有害なテレビ

さて、父という漢字が、教という字と関係があることを述べましたが、興味があることには、母という漢字は、育という字

に關係があるのです。

母という字は、女という字の古い字形である“𡇗”に、乳房を表した“…”を加えて作られた字です。つまり、乳房から出る乳で子供を育てる母親の姿を象った字です。

育という字は、生れ出る赤ちゃんの形を表した（子を逆さにした形）に食べ物(肉)を与えて養い育てることを表したものです。育をイクと発音することは、肉(niku)がこれを表しています。

ところで、母の発音のボは、慕という言葉に由来する、と言われていいます。だから、母とは、乳児を自分の乳房の乳で育てる人であり、したがって、乳児に最も“慕”われる人でなければなりません。

乳児は、出来る限り母親の胸に抱かれて、乳房を吸い、もて遊び、心臓の鼓動を聞き、あやしの言葉を聞くことが、心身共に健全な子供

に育つのに大層有益なことなのです。

泣いている幼児の耳元に、母親の心臓の鼓動を録音したものを置いて聞かせると泣き止むが、幼児の鼓動の録音では決して泣き止まない、という実験があります。母親を慕うのは乳児の本性であって、母親がいなくなればこれを求めて泣き、母親に抱かれて、その肉声を聞き、胸の鼓動を聞けば泣き止む、そういう日常の行動の中で、乳児は外界の刺激に敏感に反応する能力を育てていくのですから、独り遊びする幼児に対しては、特別な配慮をしないと、そういう能力が育たず、従って心身共に健全な子供には育ちません。

また、乳幼児は泣くことで発声器官も肺臓の機能も発達していくのですから、母を暮って泣くことを全くしない乳幼児というのは問題であって、喜ぶべきことではありません。

生れたばかりのチンパンジーの赤ちゃんを、生れたばかりのわが子と一緒に育てたアメリカの女流心理学者がいます。両者を分け隔てなく育てましたが、人間の赤ちゃんは言葉を覚えて使うようになりましたが、チンパンジーはついに覚えませんでした。

人間の赤ちゃんは、言葉を覚えるまでは、チンパンジーの赤ちゃ

んほど賢くなかったそうで、言葉を覚えるようになって、急速に智能が発達したということです。つまり、言葉が人間の智能を発達させる最大の要因だという証拠で、それは今ではだれも異論のないところです。

人間の言葉は、心と心とを結び着けるものです。だから、赤ちゃんに言葉を掛ける時は、赤ちゃんの目を見つめ、愛情を込めて語り掛けることが大切です。赤ちゃんも、語り掛ける人の目と口を見てこれを受取ります。

また、同じ言葉を繰り返して繰り返して語り掛けることが大切です。反復によって、言葉と口の形との間に関係のあることを理解し、その口の形をまねて、その言葉を発するようになるからです。この行為ほど赤ちゃんの智能を発達させる行為は他にはありません。

しかし、テレビから出る言葉は、一方通行であり、幼児の心を無視しています。幼児の目を見て語り掛けてくるものでもなく、また幼児の語り掛けに答えてくれるものでもありません。そういうテレビを相手に育った幼児が、何を語り掛けても返答しない子になるのは当然で、実に恐ろしいことです。

品性が智能の格差を生む

問題なのは、智能や知識の格差ではなく、学習意欲や品性のそれです。入試で重視される“知識”は、

言わば道具であって、それを使う人の品性の高い低いによってその価値も上下します。

ところが、今の母親の多くは、知性や知識を重視して、それより重要な学習意欲や品性を育てることには鈍感です。本末転倒と言わなければなりません。

コラム

豆知識

増えると殖える

「殖」も「増」も同じ、“ふえる・ふやす”という意味を持っている。ただ元々のつくりが異なっているのだ。「増」は、土と曾(層)とで作られた字で、土の上にさらに土を重ねて“ふやす・ます”という意味になった。一方、「殖」は𦵑(死)が表すように、植物が死んで腐ったものがこやしとなるところから、“ふえる”という意味を持つようになった。

「^{もと}本立って道生ず」です。品性が高く、学習意欲が強い者は、知識がどんなに豊かになっても決して驕らず、いよいよ努力して止みません。ところが、品性の卑しい者は、わずかな知識でも鼻にかけて、地道な努力を怠ります。

幼児は、四六時中、親の姿を追って暮しているのですから、自然と親の言行を見倣って、親に似るのだと思います。だから、「蛙の子は蛙」^{うり つる なすび}「瓜の蔓には茄子は成らぬ」と言われるわけです。

だから、親たる者は、常にわが子にまねられていることを意識して、立派な手本を示すことに努力する必要があります。昔の親は、確かにそれを意識して、気取っていたように思います。悪く言えば「猫をかぶっていた」ということでしょうか、今の若い親にはそれが全くありません。

「猫をかぶる」「偽善」ということは、悪いことのように思われていますが、「心の欲するところ^{のり}に従って矩を越えず」という境地は孔子の晩年のことです。孔子も「偽善」、つまり努力して善を行い、それが「習、性となる」ことで、真の善に達したのだと思います。

文化とは、自然を磨くことです。自然のままでは文化は成立ちませ

ん。それは人為ですから「偽」です。偽善でよいのです。気張ってわが子のために尊敬できる親の姿を見せてやろうではありませんか。

コラム **部首** 宀

【突】 “不意をつく”という意味の字で、“穴の中から犬が不意にとび出す”ことを表した。

【空】 “穴を空ける”という意味の字。「宀」と「工」とで“穴を空ける工事(仕事)”を表す。宀は“からっぽ”だから、“から”という意味にも使われるようになり、“何も無い”ということで“そら”を表すことにもなった。